

あなたと多良間村議会をつなぐ



# 村議会だより

## CONTENTS

### 9月定例会

- P.2 平成30年度一般・特別会計決算
- P.3 裸用船運用に関する決議

- P.4-7 一般質問(4名が登壇)
- P.8 管内視察報告、編集後記

村公式HPでも  
読めます



# 平成30年度一般会計歳入歳出決算を **認定**

## 平成30年度多良間村一般会計歳入歳出決算

(単位:千円)

区分	予算現額	歳入	歳出	形式収支	翌年度繰越	実質収支	単年度収支
一般会計	3,756,510	3,766,078	3,504,819	261,259	4,082	257,177	74,866

### 一般会計決算の概要

#### 形式収支は黒字だが 自主財源は減

平成30年度は、歳入側が予算現額を0.3%上回り、歳出側の未執行額と合わせると、全体の形式黒字は前年度より1千237万円増えている。

しかし、歳入の内訳を見てみると予算現額に対し増えているのは、依存財源の地方交付金が主であり、自主財源は予算現額に対し減っているのが現状。これは、村が自主的に徴収する村税や土地改良受益者負担金、畜産担い手事業の負担金、村営住宅使用料の滞納額が増えているのが要因である。安定的な財政運用を行うためにも、自主財源の確保は必要であり、行政として適切な対応が望まれる。

#### 不用額を村民サービスへ

歳出では、翌年度繰越額4千362万円を除く不用額が、2億806万円余あり、平成29年度に比べると9千783万円増えている。

一般企業とは異なり地方公共団体は営利を目的としないことから、この不用額の黒字分を村民サービスの向上につ

ながるような方法を検討する必要があると考える。

#### 質疑

#### 福額議員

多くの不用額を残している要因は、

#### 総務財政課長

地域振興拠点施設の工事がスムーズにいかず、事故繰越も認められなかったのが主な要因。

#### 産業経済課長

農業振興費で5千800万円の不用額が出たのは、さとうきびの終了が年度をまたいで5月になったため。工事請負費4千500万円の不用額は、2工区の新築工事にかかる島外経費の残りである。



# 特別会計(4会計)歳入歳出決算を **認定**

## 平成30年度多良間村特別会計歳入歳出決算

(単位:千円)

区分	予算現額	歳入	歳出	形式収支	翌年度繰越	実質収支	単年度収支
国民健康保険	215,787	245,890	201,690	44,200	0	44,200	△16,064
介護保険	150,260	152,133	136,605	15,527	0	15,527	△2,014
後期高齢者医療	11,469	11,631	11,122	509	0	509	215
水道	74,810	76,983	65,937	11,046	0	11,046	1,872
総計	452,326	486,637	415,354	71,282	0	71,282	△15,991

### 特別会計決算の概要

#### 国民健康保険

予算現額に対し歳入が上回ったのは、主に県支出金の2千890万円。要因は、減額調整後の実績による増。保険税の収入未済額は現年度と過年度分を合わせ355万円。

歳出は、療養費等の未執行額が732万円ある。

#### 介護保険

歳入が予算現額より上回った要因は、国保同様である。介護保険料の収入未済額は36万円。

歳出は、介護サービス等諸費で1,000万円余の未執行額がある。

#### 後期高齢者医療

歳入歳出共に、予算現額に対し16万円増えている要因は、システム改修委託によるもの。

#### 水道

歳入が予算現額より増えた要因は、水道料の滞納額分を調定したもの。しかし、前年度同様に滞納分の徴収がうまくいっておらず、滞納790万円あるなか、45万円しか徴収できてない。

# 裸用船運用に関する決議を **可決**

4月に設置した裸用船契約調査特別委員会での調査報告を、9月定例会において議長に提出しました。さらに、富原委員長より「裸用船運用に関する決議」を村長へ提出。起立採決し多数決で可決されました。

賛成者…富原議員、豊見山議員、渡口議員、本村議員  
反対者…福嶺議員、安里議員



## 裸用船運用に関する決議

- 1 本船は、村所有船であり、水納島航路船として水納住民の安心した生活に資するよう活用される事は当然であるが、村民全体にも恩恵が行きわたる産業の振興を図るべきである。そのためには多良間島を起点とした定期航路船としての活用を図るべきである。
- 2 村当局は、定期航路運航の経営を危惧しているが、現今の圏域の観光情勢から察すると、本船の運航による経済の活性化は明らかである。定期航路を開設することを勧告する。

## 討論／反対 私はこう考える

### 水納島住民が要望して 実現した事業であり 定期航路は厳しい

安里 三喜男 議員



資料や事業の経緯などを精査すると、あくまでも水納島住民からの要請で始まった事業であるということ。前政権からの事業構想や取り組みが認められて、これが一括交付金事業であがってきた。平成25年3月に宮古島市長から「沖縄県宮古圏域の振興について」、国県への要請が提出されており、その中に「水納島連絡船の整備について」も含まれていた。要望の理由は、「水納島は4世帯5人が生活している。主な産業として畜産業が行われている。島においては離島の厳しい条件下で、生業としての肉用牛の生産拡大に向けた畜産関係補助事業を導入してきました。外界離島であることから、島への交通手段は、船舶に限られており、子牛のセリ市場への輸送をはじめ住民の生活物資や生産資材の輸送、郵便物の配達、急患発生時の搬送

等。船舶の役割は、多岐に及ぶところである。しかしながら現在、島への交通手段は個人所有船による不定期運航のみである。現在使用している船の老朽化に伴い、代替船の確保が喫緊の課題となっている。しいては、住民生活への利便性向上、観光産業をはじめとした地域振興をはかるために連絡船の整備が必要不可欠である。そして、離島多良間村のかかえる課題解決のため、国県の財政支援について特段の配慮を賜りますようお願いします。」とある。ここでいう住民生活とは、今現在、水納島に住んでいる住民の生活を示し、産業振興とは観光もあるが、水納島住民が行っている生業である畜産業の事だと思う。最初の事業目的はなんであるかを考えたとき、定期航路として利用するのは厳しいのではないかと考える。



あさと みきお 議員  
**安里 三喜男**

**問**

**今後の高齢者対策は**

**答**

**地域支援事業の  
活用も踏まえ検討**

■見守りサービス事業導入は

全国にある自治体によっては、高齢者の孤立や孤独死防止、安否確認のための見守りサービス事業を導入している自治体が増えてきた。この見守りサービス事業の目的は、1つ目に、離れて暮らす高齢者の親が心配であること。2つ目、日中はデイサービスで安心だけれど、夜間が気がかりであること。3つ目、まだまだ元気だけれども、万が一があったら不安であること。4つ目に、家庭の都合により頻繁に会いに行けないなどが挙げられている。9月1日現在、多良間村内の独居老人世帯は、49世帯となっている。昼間はデイサービスや地域で見守り、その後は見守りサービスでひとり暮らしの方の安否を確認する。そうすることに

よって、万が一の不慮の事故なども未然に防止することができるとはならないか。このような事業にも行政は関心を持ち、導入も検討されては。

**住民福祉課長**

指摘のとおり、介護サービスとか受けられている方は日中は安心だけれど、夜から翌日朝までの間は不安な状況であるかと思う。身寄りがない、身内がほとんど多良間にいない方も何名かいらっしやいます。県内で、見守りシステムを導入している市町村は、41市町村中22自治体、行っていないのが19自治体となっている。類似自治体が1件あるが、緊急通報装置の無料貸与という事業を行っていて、独居高齢者、高齢者のみの世帯、障害者の方々たちを対象に行っている。こちらは地域支援事業を活

用して取り組んでいる。そういったのも踏まえて検討していく必要はあるかなと思う。

■介護環境整備への考えを

7月23日、村長の就任6周年の記事の中で、今後力を入れて取り組む課題10項目が述べられている。その中での高齢者対策や介護環境整備については、村民の皆さんが、特に高齢者の方々がすごく興味や関心を持って情報を待っている。

昨年の同時期と比べて、人口で35人の減、高齢化率で1.27%の増となっている。それが令和4年頃には、高齢化率32.4%になると住民福祉課の試算がある。実に、村民の3人に1人が高齢者ということになる。

さて、3月議会において住民福祉課長は、介護施設に関しては島外からの誘致も考えられるが、利用者の状況により経営上、採算や利益が伴わない場合、撤退せざるを得ないという答弁をされているが、村長の見解は。

**村長**

介護施設の設置については、これ

までも議員の皆さんからの要望も、あるいは、村民からの要望もたくさん伺っております。こういった施設が適当かそれに向けての検討委員会も立ち上げてやってきております。必要だという認識は一緒だと思えます。その中で課題は、まず、人材、あるいは職員の対応の問題、それからこの施設をつくった場合に、村民の利用者の理解と持続的な運営、施設がふえると介護保険料がアップいたします。そのことを理解しながら利用していただくかというようなことなどからして、まだ設置の状況に至っていません。そして今年度、令和元年度で県の調査事業が入り、これからの方向性の検討を行います。これによって第7期の介護保険事業に取り入れるかどうかを検討していきたいと考えております。





とみやまだし 議員  
豊見山 正

問

地域おこし協力隊の  
住宅使用延長は

答

任期終了時に退去し  
募集する

■定住促進対策は

5年間で65名の人口が減少している。村長はこの現実をどう感じているのか所見を伺いたい。

村長

人口対策については何でもやっていきたい、そういう方向性を持って進めているところである。

質問

本村では、定住促進住宅を設置して、本村に暮らす意思のあるI・Uターン者や村内で人材確保の厳しい特殊資格者等に住宅を賃貸することによって、I・Uターン者や特殊資格者等の定住の場を確保するというところで、定住促進住宅がある。現在4名の地域おこし協力隊が活躍

は退去していただかないと、次の協力隊につないでいけないのでそういう方向性になる。

意見

ほかの地域では臨時職員として採用するなり、あるいは、嘱託職員として採用するなどして定住促進につなげている自治体もある。ぜひ参考にさせていただきたい。

■水納島の振興計画の策定は

6月21日、村議会は議会活動の一環として水納島を視察した。水納島津波タワーに緊急用の食料の備蓄はされているか。

総務財政課長

津波タワーができた段階で、水と食料のほうは一部備蓄してある。早目に更新も行いたい。

質問

本村の活性化のためには、水納島の位置づけは大きなものがある。水納島の自然を守り、本村の活性化を図るためにも、総合的な調査と振興計画の策定が必要と思うが

村長の考えは。

村長

地元の住民と懇談したときに暴風雨で防潮林の被害があり、大分木が枯れている状況があると伺っている。今のところ計画はないが、県立自然公園でもあることから、またほかの面も含めて、県との連携を図りながら今後検討していきたい。

要望

特に防災林事業等を導入できるように、早急に要請・要望をしていただきたい。全体的な活性化の方向できちとした施策を立てていただきたい。





とみはら やすのり  
**富原 安則** 議員

■新製糖工場施設追加工事費用請求

平成31年4月25日、臨時議会において、多良間村新製糖工場機械機具設備工事の遅れによる損害賠償請求に関する調停で、月島機械から1億4500万円の合意に至り提案された議案が反対多数で否決された。その後の案として村長から提出された多良間製糖工場使用料支払計画案の内訳では、機械機具設備工事追加費用1億5000万円、弁護士費用648万円となっている。その費用総額を宮古製糖が支払うという案のもとで説明があったが、宮古製糖との確約書は取れているのか。

産業経済課長

使用料の内容は説明してありますが、確約書は取れておりません。

問

宮古製糖と  
確約書取れているか

答

確約は取れていない

質問

そうすると何の進捗もないということですね。情報によると、宮古製糖の弁護士が損害賠償金並びに弁護士料までなぜ宮古製糖が負担するかと弁護士が話しているそうですが。

産業経済課長

追加費用の中の1億5000万円、そして弁護士費用については工場側に説明しているところであります。今後、工場と協議していききたいと考えております。

■南原団地建設工事請負契約

度重なる入札不落で、ようやく契約の運びとなり、早期の完成を期待し、今後とも皆さんの努力を希望する。しかし、今後のために質問す

る。1億400万円余の指名競争入札となっているが、入札から落札、契約までの事務的経緯の説明を求めらる。

土木建設課長

南風団地の審査委員会を7月17日に開き、8社の業者を指名し、7月31日に現場説明を行い4社が辞退。残り4社で3回入札を行いました。落札者なし。差額が100万円ほどあったので、参加業者に最低入札価格業者と話し合い確認し、随意契約を結び議会の議決を経て、契約の運びとなりました。

質問

多良間村建設工事請負業者指名基準及び指名審査会等に関する要綱で業種別に等級A、B、C、Dのランクがある。1億400万円の事業費だが基準のランクに沿っているのか、落札業者はどのランクか。この工事は\*JVなのか説明を。

土木建設課長

この工事はAランクの工事、落札業者はDランクです。従来の入札選考要領ですとAランクなので、B

議会豆知識 

「JV (共同企業体)」とは

大規模な建設工事業において、複数の企業などが協力して事業を請け負う形態のこと。

ランクまでしか入れません。しかし、多良間村にはBランクの建築業者はいません。要項では要領のほうがかせになって、実際工事はできるとい現場の話がありました。村長とも相談し社会情勢等で落札ができな場合は、会社の状況、社会的な信用などを審査委員会で認めた場合、ランク外から入れてもいいように要領を改正しました。これがDランクの業者を入れた経緯です。



ふくみね つねお 福嶺 常夫 議員

問

お土産・食事施設の  
供用開始は

答

来年度の4月を  
目指している

■地域振興拠点施設の計画は

この施設は本来30年度の完成であつたが、工事の遅れがあり今年度の事業費で1億276万が計上されている。いつ工事が終わり事業完了するのか、そして、供用開始の時期はいつなのか。管理運営計画の説明も。

観光振興課長

外構工事は11月、太陽光発電は年内の工事終了を目処に進めていきます。その後、備品などを整えてから指定管理を進め、来年度の4月に供用開始を目指しています。管理運営については、施設全体と土産品店は観光協会、食堂は専門的な技術が必要になりますので、別の事業者指定管理を任せる予定です。

■伝統芸能振興の運用を

ふるさと納税を活用して振興基金を設置し、多良間島の伝統文化の保存継承、民族芸能振興の運用に活用してはどうか。具体的には、施設の整備や舞踊、演劇の衣装、用具等の備品の購入、あるいは修繕などである。島の伝統芸能の保存・育成に力をかけてもらいたい。

教育長

伝統文化の保存継承はとても大切なことだと思えます。基金については総務財政課と調整しながら検討します。

総務財政課長

ふるさと納税を活用して基金造成ができるか、基金が設置できるかを

検討します。

質問

最近、沖縄県でも組踊等を世界遺産へ申請する取り組みがニュースになっている。国指定の文化財である多良間の豊年祭も、ユネスコ世界遺産申請する必要があると考える。地盤固めのために、八月踊りの冊子を再発行し、多くの観光客にも提供してもらいたい。

教育長

冊子の在庫を確認し、再発行にむけて取り組めます。

■徴収率が県内ワースト2位

平成30年度決算審査資料に、自主財源である村税の徴収率が81.3%とあり、前年度比2.2%下がっている。平成29年度の普通税徴収率を市町村で比べると、徴収率が80%台は2自治体しかなく、多良間村は下から2番目である。なぜ平成30年度の徴収率が下がったのか。滞納者への個別訪問等は行っているのか。

税務会計課長

現年度分と30年度分の徴収率は90%台で推移していますが、過年度分が10%台になっています。滞納につきましては、督促状や催告状の通知、電話や臨戸も行っております。また、役場等で見える場合は、声をかけて話をしていきます。更に宮古島に行く場合も臨戸をするようにし、何とか未済額が減るように取り組みを進めております。

意見

自主財源である税等は交付税の算定においても規定がある。島の人口減少の中、一人一人が努力しないとけない。1%でも必ず税率を上げるとい意識を村民にも伝え、納得をしてもらい徴収業務に取り組んでほしい。



## 2 前泊港 (収集漂流ゴミ現状確認)

海岸漂着物改修事業で集めたものが、数か月経ってもあり港の景観を悪くしている状況です。県外へ排出するまでが事業内容となっていますので、みんなで注視しましょう。



## 3 堆肥センター (2億6000万の増設工事の現場確認)

老朽化した施設を3年計画で工事し、今回で最終工事になります。堆肥販売が年間約400万円なので、現時点では工事費で赤字ですが、多良間の農家には必要不可欠な堆肥です。今後も良質な堆肥の製造を望みます。



視察後の工事の様子

# 議 会 ト ピ ッ ク

## 2019年9月定例会 管内視察報告



### 1 ふるさと海浜公園 (海岸側現状確認)

海浜側の足場が風や雨などで崩れて危険な状態でした。村民や観光客が、頻繁に利用する場所です。転落事故等も考えられるので、早急に防止策を行い安全で安心な場所を確保してほしいです。



### 教育長の任命について

●住所/多良間村 ●氏名/池城 三千雄 ●年齢/63歳

同意



審議結果を  
多良間村公式HPで  
確認できます。

### 編集後記

村内のある場所で、午後の日差しが和らぐ頃になると、二人のお年寄りが木陰で肩を寄せ合いおしゃべりしている姿が毎日のようにみられる。

本村ヨシさん(95歳)と仲本ノブさん(88歳)大のなかよし二人組だ。

毎日何を話しているのか気になり尋ねてみた。人の悪口はいわない。子や孫達の話から、若かりし頃の恋愛話まで話は尽きない。

最近、103歳精神科医(高橋幸枝さん)の「元気に長生きの秘訣」を読んだ。「適度な運動も大切だが、心の健康のためには日々、誰かと話すことも必要です。」とある。まさに身もこころも健康な二人の大先輩にあてはまる言葉だと思う。寒い冬の間はどのように過ごされるか気になるところだが、春の日差しが感じられる季節がきたら、またお会いしましょう。

議会広報副委員長  
安里三喜男

